

全線開業までいよいよあと一年。 九州新幹線は阿蘇市にどう影響するか。

抜群の人気を誇る「阿蘇」。このチャンスを確実に生かすために！

現在熊本県の観光客数は年間5千8百万人。九州新幹線が全線開業すると熊本・大阪間が3時間20分で結ばれ、交流人口が相当数増えることが期待されます。宿泊数も県内で100万人の増加を目標としており、増加の約7〜8割が阿蘇に流れると予想され、観光地の整備、2次アクセスの整備、宣伝活動などが急ピッチで進められています。熊本県でも阿蘇に期待し盛んに観光戦略を打っています。私たちはこの経済的効果が見込めるチャンスを確実に観光業、農業等に生かし、そして潤い、住んでいる私たちがまず「幸せ」と思える観光地にすることが、次世代にこのまちを託す大きな一歩となるでしょう。



九州新幹線 平成23年3月全線開通

大阪—鹿児島間を走る 新型列車「さくら」

JR西日本とJR九州の共同開発で誕生した「さくら」は8両編成で熊本から新大阪までを約3時間20分で結びます(鹿児島中央・新大阪間約900キロは約4時間)。営業最高速度は300キロです。

九州内新幹線駅名 鹿児島中央—川内—出水—新水俣—新八代—熊本—新玉名—新大牟田—船小屋—久留米—新鳥栖—博多



■熊本県ロゴ・キャッチフレーズについて

新幹線くまもと創りのロゴ・キャッチフレーズとして全国公募されました。そのキャッチフレーズ部門671通の応募の中から見事最優秀賞に輝いたのは内牧の野尻裕二さん(阿蘇市職員)です。野尻さんが考えたキャッチフレーズ「どこさ、ひごさ、熊本さ」には、「どこにいくの?」と聞かれて「肥後さ、熊本さ」と答える人が増えて欲しいという願いが込められています。



阿蘇市観光協会
会長 小笠原徹朗氏

各県と連携し、厳選コースをつくり誘客。リピーターの定着に邁進。

阿蘇市観光協会

会長 小笠原 徹朗

阿蘇観光は、地域経済にとつて、一大産業であります。観光交流人口は右肩上がりです。近年は、1,900万人、将来的には、外国人観光客も含め更に増加し、2,000万人も夢ではありません。

九州新幹線全線開通は、長距離、大量、高速移動で交流人口の増大

このチャンスを県勢浮揚につなげるため、「新幹線元年戦略」を展開。

熊本県阿蘇地域振興局

局長 岡本 哲夫

百年に一度のビックチャンス、九州新幹線全線開業まで残すところ1年となりました。熊本県ではこのチャンスを県勢浮揚につなげるため、関西・中国地方での熊本の認知度向上、県内各地への交通アクセスの改善・強化、さらには県外からの移住・定住を視野に入れた熊本の魅力を体感できるツーリズムの推進等に取り組む「新幹線元年戦略」を展開しています。また、平成23年を「新幹線元年」



熊本県阿蘇地域振興局
局長 岡本哲夫氏

が期待されます。先駆けて今年12月に開通する東北新幹線のプロモーション力は、地元のみならず、尋常ではないと聞いています。阿蘇は天賦の一等地であり観光協会としては、宿泊に特化した受け皿の充実を図りプロモーション活動を進めます。

- 九州島内へは、100コースを目標に商品開発し、一部はすでに販売開始しています。
- 大阪以西については、九州各県各地域との連携を強化し、商品化した100コースをベースに拡大充実に努め、厳選コースを作り販売します。
- 外国人(韓国・台湾・中国)については、他の機関と共同で、広報宣伝、マーケティング・リサーチを強化し、将来客の造成と、リピーターの定着を図ります。千載一遇のチャンスを、未来へのジャンプ台として節目として、生かしていきます。

と定め、全線開業に合わせて、県内各地で地域の特色を生かした開業記念事業(新幹線元年事業)を実施します。当地域では「スローな阿蘇づくり」をテーマに長期滞在型観光の定着を目指し、エコ・タウン・グリーン等の3つの切り口での新しい旅のスタイルの開発や、「おもてなしの心」の向上を目的に「もてなし講座」や「阿蘇まるごと検定」等、様々な事業を実施してきました。こうした取り組みの集大成として、平成23年3月から「阿蘇カルチュラル・ツーリズム博覧会(通称 阿蘇ゆるっと博)」を開催します。すでに各市町村に実行委員会が設立されるなど、博覧会の実施準備が着々と進められています。

阿蘇市は見所が豊富で、多くの観光客の入り込みが期待できます。観光業はもとより、農業においても多くの食材の消費等に関わって行くことでしよう。ぜひこの機会を経済的発展、地域活性化につなげてほしいと思います。今後も皆さまと力を合わせ、世界に誇る阿蘇地域の魅力を全国に発信してまいります。



平成23年を「新幹線元年」と定め、県内各地で開業記念事業を展開。阿蘇地域では「阿蘇ゆるっと博」を開催！

「阿蘇に来てよかった!」と思ってもらいたいから、私たち頑張っています!

旅館組合オプションツアー「阿蘇カルデラツアー」で、阿蘇の魅力を最大限に!

全国でもめずらしい!阿蘇温泉観光旅館協同組合(23軒)で第3種旅行業を取得。独自のオプションツアーをつくることになりました。そこでスタートした「阿蘇カルデラツアー」では、タクシー・バスを利用したツアー、散策、イベントなどを四季折々に企画。満足度アップ、リピーター増につながる新しいツアーです。



新幹線開業と観光誘致戦略についてのシンポジウム開催

開業に向けこの数年間数々の会議やシンポジウムが行われています。「受け皿づくり」がキーワード。あと一年で市民一人ひとりの意識向上までもっていかねばなりません。

1月30日、阿蘇ほたるの会主催で行われた地域づくりシンポジウムには150人が参加。県地域政策課長小林氏を迎え、パネルディスカッションがあり、皆熱心に聞き入り、農業分野までこの機運が伝わり、「阿蘇の食材」をどれだけ売ることができるのかも今後の課題となりました。



写真は市観光協会の若手メンバーでつくる新幹線プロジェクトの会議の様子。2年前から月に1度会議を開き農観商の魅力ある展開を迫っています。また、「おもてなし講座」にも積極的に参加し観光業者としてのノウハウと心構えを!

阿蘇市の印象は、市民一人ひとりの笑顔から。

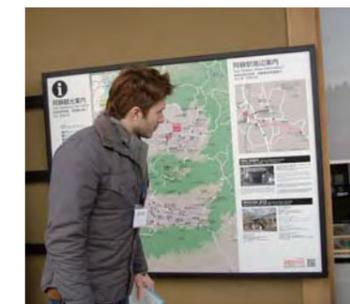


昨年夏、ジェームズ君が阿蘇駅の一駅長になり観光客をお出迎え。

「僕も笑顔?で阿蘇のPR頑張ってます。みんな阿蘇市へ来てね!」



「阿蘇ゆるっと博」が来春スタート。阿蘇周辺の広大なカルデラ地域を博覧会場ととらえ、宮地・坊中・久石・下田・長野・らくだ山周辺・阿蘇山上・内牧温泉・手野・白川・高森商店街の各地域をそれぞれパビリオンとして見どころやグルメなどカルデラ地域の魅力をたっぷり提供します。詳しくは冊子をご覧ください。阿蘇地域振興デザインセンター ☎22-4801



案内板の設置
多言語の案内板整備にも取り組んでいます



列車からの玄関口を整備

写真はJR阿蘇駅前ロータリー建設予定地。阿蘇市で最も交通量の多い阿蘇駅前交差点。スムーズな交通網を図り、ロータリーと駐車場を整備。



入り込み客も阿蘇市の人口と含め、地産地消を進める

その土地のものを食べて帰りたい...

お客さんは「阿蘇の農産物を食べたい」と思っています。観光客数は、現在でも本市に年間507万人。うち86万人が宿泊しています。食事やお土産の消費はどこで?・・・「それは阿蘇市で!」



阿蘇ハチマルラインも阿蘇地域一帯で展開。



旬の農産物グルメ特集を様々な店舗で展開。Tomattoベリーな街の皆さん。



内牧温泉で食べ歩きしよう!



門前町商店街の皆さんが「激辛」グルメで観光にピリッと刺激を!ユニークさとインパクトは確かに大事。

《2次アクセス準備》



大観峰や小国を巡る定期観光バス「あそギャラリーバス」運行開始(産交バス)



電動アシスト自転車の設置。ASO田園空間博物館やインフォメーションセンターで貸し出し(阿蘇地域振興デザインセンター)

阿蘇山上ロープウェーゴンドラ、リニューアル(九州産交バスツーリズム)



全国からの観光客に喜ばれる「受け皿づくり」着々と。